

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

ASEAN グローバルプログラムで感じたこと

中谷 優太
Yuta NAKATANI
情報メディア学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムとシンガポールを訪れた。その中で企業訪問やベトナム工業大学の学生とのPBL、南洋工科大学の見学、現地で働く方々の講演会、交流会などを体験できた。

表1 プログラムの日程

8月28日	ベトナム入国
8月29日	企業訪問
8月30日	ベトナム工業大学とのPBL(調査)
8月31日	PBL(調査の続き、発表)
9月1日	自由行動
9月2日	ベトナム出国→シンガポール入国
9月3日	南洋工科大学の見学
9月4日	Google社での講演会、ビジネスパーソン交流会、加藤氏の講演会
9月5日	自由行動、シンガポール出国
9月6日	帰国

以下より参加目的や参加して感じたこと、その上での課題などを報告する。

2. 参加目的

私はこのプログラム以前には海外に行ったことがなく、今回が初めての海外体験であった。私は海外に出向き、日本とは異なる様々な文化を見てみたい、肌で感じてみたいと思っていた。しかし、なかなか一歩を踏み出す決断ができず、先延ばしにしてきた。今回、このプログラムのことを知り、いい機会だと思い、参加する決心をした。

私の最大の目的は、日本を出て海外に行き、日本とは異なる文化を肌で感じることであった。

3. 研修内容

このプログラムを通して、初めて海外に降り立ったということもあり、ベトナムのハノイに入国して、1日目、2日目の出来事が最も印象的であり、今でも鮮明に記憶に残っている。よって本稿ではその時のハノイでの企業訪問について取り上げる。1社目は鈴木栄光堂ベトナムの工場見学と質問会であった。2社目は2グループに分かれたが、Rikkei Soft社とNTQ社に訪問、社員との交流会に参加できるプログラムだった。私は2社目の訪問先がRikkei Soft社であったため、そこでの体験を報告する。

3.1 鈴木栄光堂社ベトナム社

鈴木栄光堂社は去年の2017年に140周年を迎えた菓子製造業、菓子卸売業を事業とする会社であり、本社は岐阜県大垣市にある。東京や三重など他の場所にも事業所があるが、海外にも拠点を置いており、私たちが訪問したベトナムのほかに上海にも拠点がある。

訪問した向上は、他の企業も立ち並ぶ工業地帯の中であった。会社説明と海外で働くことについて、ベトナムハノイ支部の代表の方から、スクリーンの映像を交えながら視聴させてもらった。ベトナムは日本と似たような文化ではあると感じていたが、やはり異なる部分も多々あり、日本とは異なる文化に合わせた運営方法や工場の作り方があったと学んだ。しかし、十数年、何十年もの間、現地で働くことにより、時代とともに経済の流れがはっきりとわかるといわれていた。このように他国から来たことで、その国を主体的にみることもでき、経済の流れも理解する人がその国の発展をもたらすのだと、このとき感じた。

その後、工場の見学をさせていただいた。そこにはキャンディーを製造する様々な機械が見られた。

そして人の手がどうしても必要な場所に現地のベトナム人が配置され、作業を行っていた。キャンディーの製造プロセスは、

- ①材料投入、②煮詰、③添加、④冷却・練り、
- ⑤成形、⑥検査、⑦個包装、⑧梱包

の8つの工程であった。

私はこの鈴木栄光堂ベトナムの見学を経て、様々な情報を得た。上記のスケジュール表にもあるように、私たちはこの次の日に、ベトナムでのキャンディーのマーケティングについてのPBL活動を行ったが、そこで利用できる様々な情報も得られた。因みに、その翌日に鈴木栄光堂ベトナムの社長とハノイのマイクロアド社の代表の方々に向けてプレゼンを行ったが、私たちのプレゼンをお二方は褒めてくださる一方で、さらに何段階も深く掘り下げたところに観点を置いていることも感じる質問やコメントを頂け、感心し、勉強になった。

3.2 Rikkei Soft 社

この会社は立命館大学と慶応義塾大学を卒業した5人が共同で立ち上げ、現在450人を超えるエンジニアがおり、事業内容としてはスマートフォンアプリの開発、ゲーム開発、ウェブシステム開発、金融・業務系システム開発などを取り扱っている会社であることを、事前に調査して行った。

高層ビルの中にあるオフィスの中に入り、Rikkei Softの社長による会社の説明、紹介が始まった。そこで驚いたのは、この会社では企業間での日本語の交渉などができるように、レベル別に合わせた日本語の授業が全社員用に開講されており、日本語の教



Rikkei Soft 社の会社説明風景

育が積極的に行われていることだった。その後に行われたのはスタッフとの交流会であった。交流していくことで更に驚いたのはそのスタッフの日本語が達者であったことである。英語でさえままならない私は、この交流会を通して大きな刺激を受けた。

4. おわりに

上述したように、私の目的は、参加する直前まで海外に行くことだけであったが、実際参加して自分の視野がどれだけ狭かったかに気付けた。視野が広がった分、様々な自分の問題、課題に気づけたと思う。具体的には、海外で働くリスク、人種による観点、価値観の違い、そして必ず必要となる英語力などがプログラムを経て分かったことである。逆にそれらを乗り越えると、知識、経験、技術など、得られるものは非常に多いとも感じた。

初めての海外ということもあって、たった十日間ほどであったが経験したこと、刺激を受けたことは期待したより多かった。

このプログラムに携わってくれた方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。